

豊田市民芸館だより

第28号



名古屋造形大学所蔵・石井コレクション
染型紙 鶴紋 突彫り

目次

- ・民芸の森の秋 2頁
- ・特別展「柚木沙弥郎の染色 もようと色彩」開催報告 3頁
- ・企画展「名誉市民 本多静雄コレクションⅦ -現代陶芸 瀬戸・常滑を中心に-」ほか... 4頁
- ・企画展「染型紙の技と美 -伝統文様から「かわいい」まで-」準備レポート... 5頁
- ・令和2年度展覧会案内 6頁
- ・民芸館からのお知らせ 7頁
- ・資料紹介 編組品 8頁

森のアート展 アートデイズとよた2019 Toyota Specific

10月1日(土)～10月14日(日)

主催：アートデイズとよた実行委員会

旧海老名三平宅にて伊藤正人氏（現代美術）・柄澤健人氏（彫刻）の作品を展示しました。10月5日にはギャラリートークも開催。アートに親しみを感じながら、地域の魅力を再発見する機会となるなどを目的として、民芸館や豊田市美術館などほかの場所での展示と連携した「アートデイズとよた2019」の一環で開催しました。民芸の森の展示では、「作品と建物との親和性を感じた」との来場者のお声もあり、アートと建物との相乗効果をご覧いただくことができました。



渥美窯バスツアー 10月10日(木)

本多静雄氏ゆかりの地を巡る第2回のバスツアーとして、田原市の渥美窯や田原市博物館などを訪ねました。40名の参加者は、本多静雄氏とその発見などにかかわった渥美窯や出土品に興味深く見学されました。

観月会 10月12日(土) -開催中止-

民芸の森倶楽部との共働で、7月から舞台・展示・広報などの準備を進めてきましたが、台風19号による荒天のため、安全確保を優先し、残念ながら開催を見合わせました。

勘八峡紅葉ウォーキング 11月16日(土)

民芸の森を発着点として、越戸ダムの上を渡って勘八峡を一回りする約4kmの特別なコースを、晴天の下約180名の方がそれぞれのペースで歩き、景観などを楽しみました。この催事は、平戸橋1区・名鉄学園杜若高等学校・中部電力愛知水力センター・国土交通省名四国道事務所など、地域の皆さんの協力をいただき実施することができました。改めて感謝申し上げます。



森のアート展 挙母木綿伝承会作品展 -自然の恵みと先人の叡智-

11月2日(土)～12月15日(日)

挙母木綿伝承会による作品22点や制作の道具の展示のほか、布の織りなしや密度などについてもわかりやすく展示し、805人の来場者がありました。来場者は、木綿の織物の織り方や模様などにたいへん興味を持っていただきました。また、展示期間中には伝承会の会員によるギャラリートークを2回実施し、52人が参加され、詳しい解説に耳を傾けていました。



森のアート展 次回のご案内

日々折織 -自然・季節・暮らし- 2月29日(土)～4月19日(日)

染織家（民芸館講座講師）・別府佳代子氏による、自然の草木由来の染料で染めた麻・ウールの糸や裂き布で織る暮らしの中の作品を展示します。

ギャラリートーク：3月28日(土) 10時30分～

民芸の森 文化講座 せいすい 青佳談義のご案内

日時：3月14日(土) 午後1時30分～2時30分 場所：平戸橋いこいの広場（豊田市平戸橋町）

講師：長瀬 稔氏（元NDS（株）本多静雄氏秘書）

内容：愛知県陶磁資料館・豊田市民芸館の設立と本多静雄 定員：当日先着40名（参加費：無料）

特別展「柚木沙弥郎の染色 もようと色彩」開催報告

会期：令和元年9月10日[火]～12月1日[日]



第1民芸館（旧日本民藝館大広間）での展示風景

柚木展を終えて

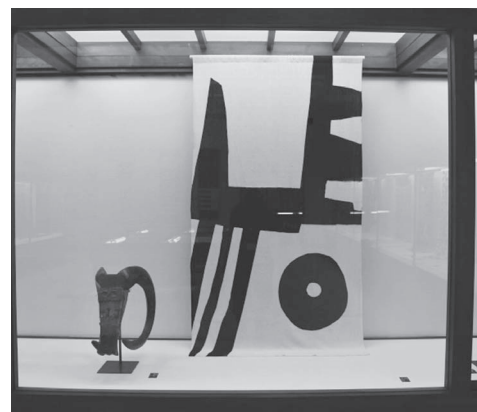
今回の特別展「柚木沙弥郎の染色 もようと色彩」には北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から多くの方がご来館くださり、あらためて柚木氏の作品、作家としての柚木氏のファンがたくさんいらっしゃることを実感いたしました。

展示をご覧いただいた方々からは、「作品が生き生きとしている」「見ていて楽しい」「おしゃれ」「かわいい」と言った声をたくさん聞きました。柚木氏自身、作品を見た人たちが元気になってくれたらうれしいと語ってみえるので、その想いも来館者に伝わったと思います。

染まったところと染まらないところのバランスのおもしろさ

会期中寄せられた作品への質問や、関連企画「民芸バス探訪」で柚木氏のゆかりの地である長野県松本市を参加者に案内するため、11月に改めて柚木氏を取材させていただきました。その際に、型染布「隅」（写真右）の作品について、私には、動物のようにも見えたため何の形かを質問したところ、「これが何かって？ どうでも良い。(笑) しいて言えば部屋の隅。」とのお答え。「染物というのは、染まったところと染まらないところのバランスのおもしろさで、型紙に穴をあけたところが白くて型紙のところが染まる。丸や三角などを並べるだけで良い。」という師・芹沢銈介から初めに学んだ考えをずっと踏襲されているとのことでした。

また、展示作品には鳥の模様のものがいくつかあったためそのモデルもお聞きしたところ、鳥は身近にいて、「リアルなものの姿を表現した。」と語られました。それは柳宗悦が「模様とは何か」という文章の中で述べている「模様はものの精髓の描写である。」「模様はものを煮つめた姿である。それが美しいのは、味が濃いためである。」という考えに通じるものを感じました。



第2民芸館で展示をした型染布「隅」 2017年

「ゆるぎない個性」と「美しさの普遍性」

特別展の記念講演会「柚木沙弥郎の民藝と創造」の際、講師の松井健先生がお話されたなかで特に印象的だった内容は、柚木氏の作品には「ゆるぎない個性」と「美しさの普遍性」があるということです。「美しさの普遍性」とは、柚木氏の作品はどのような場所に飾っても似合うということで、「ゆるぎない個性」とは、作品を見ただけで、これは柚木氏のものと分かるということです。一見、相容れなさそうな価値観が共存する背景には、柚木氏が民藝、工藝の世界を基礎として、職人のもとで修業し、染色の技術が身体に備わった上に発揮される独自性があり、それは自己表現の範囲での小さな個性ではなく、小さな個性を踏み潰した先に形づくられた大きな個性ゆえの普遍性であるというお話でした。

展示室を彩る若い時代から最近の作品まで、そのすべてが生き生きと輝いてみえるのは、そういう理由があるからなのだと思います。

私は、今回の特別展を通じて、柚木氏の作品と柚木氏自身からたくさんの前向きなエネルギーをいただくことができました。ここに、開催にあたりお世話になった関係者、ご観覧いただいた皆さまに心より感謝申し上げますと共に、柚木沙弥郎氏の今後のご活躍を心より祈念いたします。

(内田美穂子)



取材に笑顔でお答えくださる柚木氏 ご自宅にて

企画展「名誉市民 本多静雄コレクションⅥ -現代陶芸 瀬戸・常滑を中心に-

会期：令和元年12月10日〔火〕～令和2年3月8日〔日〕

◇古陶磁研究家・本多静雄氏は、現代陶芸の収集や作家への育成にも力を入れていた。

本多静雄

本多静雄氏（1898～1999 豊田市花本町出身）は、電気通信事業と科学技術の向上に献身するとともに、古陶磁研究家として、陶磁器の研究に取り組みました。特に「猿投山西南麓古窯跡群（猿投窯）」の発見者としても著名です。貴重な資料や出土品の収集、研究により郷土文化の発展に貢献し、その功績により昭和52年（1977）豊田市名誉市民となりました。

本多静雄と現代陶芸

現代陶芸とのかかわりは、昭和18年、内閣技術院第一部長という要職を辞したのち、昭和19年頃、電力の鬼といわれた松永安左エ門（耳庵）と陶芸家・加藤唐九郎との出会いや昭和20年12月、民芸運動の創始者・柳宗悦との出会いがきっかけで深まりました。松永から茶道を通じた茶器、本多氏の陶芸の師匠でもあった加藤からは古陶磁を、柳からは陶器をはじめ民芸について教えを受けます。

さらに、実業家のかたわら、昭和29年猿投窯を発見し、古陶磁研究や収集が盛んになり、昭和31年、自身の研究成果とコレクションを広く公開する「陶器の鑑賞と桜見の会」（観桜会）を自邸（現・豊田市民芸の森）で開催。昭和42年からは博物館明治村（愛知県犬山市）で春に催される明治村茶会を担当しました。いずれも本多氏がお亡くなりになる平成11年まで毎年行われました。この時、本多氏は各地の陶芸家に茶器の制作を依頼するなど、現代陶芸の振興にも寄与されたのです。

本多静雄の夢とその後

本多氏の夢は、猿投窯からつながる瀬戸や常滑など陶磁器産業が盛んな愛知県に、古代から現代までと、日本のみならず世界中のやきもの展示する博物館をつくることでした。本多氏自身も建設委員となり参画したこの博物館は、昭和53年に開館した愛知県陶磁資料館（現・愛知県陶磁美術館）のことで、本多氏はここに宿泊のできる陶芸研修施設も作る計画をしましたが経済状況等の理由から実現しませんでした。さらに、本多氏の最晩年、私財を投げ出し、若手陶芸家を育成するための基金を創設しようとしたのですが、志半ばで病に倒れ、これも実現せずに終わりました。

なお、平成6年、民芸の普及のために本多氏からの豊田市への寄付金と豊田市の出資により、市が「豊田市民芸・猿投古窯基金」を設置しました。このことから豊田市では、本多氏の想いを受け継ぎ、本多静雄氏のコレクションや業績を継続的に公開することで、民芸や陶芸をはじめ芸術文化の振興や地域の発展に寄与するよう努めています。

今回の企画展では、愛知県の瀬戸、常滑の作家を中心に本多氏の郷土、豊田市平戸橋で昭和18年から昭和40年頃の間陶芸活動を行った加藤唐九郎や岡部嶺男、河村喜太郎の作品など、伝統から創造的なものまで様々な作品約150点を展示しています。

これらの作品を通して本多氏の思いを感じていただければ幸いです。

第100回記念企画展「染型紙の技と美 -伝統文様から「かわいい」まで- 名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に」同時開催

「木工芸 黒田辰秋が集めたもの -黒田家寄贈資料展-」（第1民芸館）

会期：令和2年3月17日〔火〕～5月24日〔日〕

人間国宝の木工芸・黒田辰秋（1904-1982）が集めた民芸資料など約400点の中から漆器、編組品、やきものなど約100点と、豊田市美術館が所蔵する黒田作品5点も展示します。この5点の中には、映画監督の黒澤明氏旧蔵の拭漆櫛家具セット（1964年）があります。この家具セットは黒澤監督がお酒のCMに出演した際に使用された家具です。

豊田市民芸館への黒田家からの寄贈は、旧黒田辰秋邸が取り壊される際、黒田氏の工房で修行したことのある元豊田市美術館副館長の青木正弘氏からの紹介によるものです。平成25年3月に黒田氏が収集した多数の民芸資料や工房の資料などから選別し、ご親族からご寄贈いただきました。限られた時間と運搬の関係で、

大型の車簞笥などは寄贈を断念したものもありました。今回の展示では民芸運動に係わりのあった黒田氏の収集の一端を紹介するとともに、黒田辰秋の朱塗、拭漆、螺鈿などの優れた手仕事の作品もご覧いただけます。



瀬戸 麦わら手茶碗

豊田市民芸館の記念すべき第100回企画展を名古屋造形同窓会（旧名古屋造形短期大学と名古屋造形大学の同窓会）と共催で企画展「染型紙の技と美 - 伝統文様から「かわいい」まで - 名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に」を開催することになりました。平成29年度に開学50周年を迎えた名古屋造形大学には貴重な染型紙のコレクションがあります。そのコレクションを多くの方にご覧いただき、今後の活用につなげていきたいと同窓会の皆さんから当館に相談があり、今回の企画展実現へとつながりました。

名古屋造形大学所蔵の石井コレクションとは、明治24（1891）年に名古屋で創業した石井染工所が所有していた染型紙のコレクションのことです。大正モダニズムの時代から戦前・戦後を通じ、名古屋における着物ファッションを支え続けてきた石井染工所ですが、着物の需要減少という時代の流れの中で染型紙はその役目を終え、染工所の倉庫の中で眠っていました。その後縁あって名古屋造形大学へ寄贈されることとなった2万点にも及ぶ染型紙は、大学の研究資料として、分類・整理され、現在、造形芸術研究センターで保存されています。

今回、私たちは文化庁の生田ゆき調査官の来訪に合わせて、型紙が保存されている研究センターを訪ねました。私は研究センターに整然と保管された膨大な量の型紙に圧倒され、そこに彫られた多彩なデザインにその時代の流行を感じ、無地の型紙からどのような色で布が染められていったのか想いを馳せました。



型紙を調査する生田調査官 造形芸術研究センターにて



鈴鹿市伝統産業会館にて

また、別の機会に同窓会の実行委員と、三重県鈴鹿市にある伊勢型紙資料館と伝統産業会館を訪ねました。国の重要無形文化財に指定されている伊勢型紙は伊勢型紙技術保存会を中心にその技術が伝承されており、また伊勢形紙協同組合では現代の暮らしに合う伊勢型紙の活用を提案されています。

今回の企画展は鈴鹿市様の協力も得ながら、同窓会の実行委員の視点と切り口で魅せるこれまでとは違った展覧会になると思います。50年以上の歴史を持つ同大学の多才な同窓生による講座などの関連企画も充実しています。今回の展覧会を通して貴重な文化遺産である染型紙の魅力を再発見し、今後の活用についても皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

（内田美穂子）

企画展「染型紙の技と美 - 伝統文様から「かわいい」まで - 名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に」

会 期：令和2年3月17日（火）～5月24日（日）

会 場：第2民芸館

観 覧 料：無料

記念講演会：4月11日（土）14時～15時半

座 談 会：3月22日（日）14時～15時半

主催/豊田市民芸館 共催/名古屋造形同窓会 協力/名古屋造形大学、鈴鹿市、伊勢型紙技術保存会、伊勢形紙協同組合

その他、伊勢型紙彫実演、型紙布を使ったあずま袋作り、伊勢型紙で藍染ハンカチを染めよう、型染めおもいで帳づくりなど関連企画を予定しています。

令和2年度 (4月～令和3年3月) 特別展・企画展 展覧会のご案内

企画展『染型紙の技と美 ー伝統文様から「かわいい」までー 名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に』 第2民芸館
同時開催『木工芸 黒田辰秋が集めたもの 黒田家寄贈資料展』 第1民芸館
 ～5月24日(日)まで <観覧 無料>

企画展「Folk Crafts ー世界の手仕事 館蔵コレクションよりー」 第1・2民芸館
 6月2日(火)～9月6日(日) <観覧 無料>

世界には200近くの国があります。それぞれの国や地域でその暮らし中から民芸品が生み出されています。様々な国で布が織られ、染められ、刺繍がほどこされています。また焼き物が焼かれ、籠が編まれ、人形が作られています。しかしそのすべてが一樣ではありません。色、模様、かたちが様々です。東京オリンピック・パラリンピックが開かれる本年、館蔵品より世界の手仕事を紹介します。オリンピックで活躍する選手の国々の品もあるかもしれません。アジア、アフリカ、南アメリカの染織品を中心に展示紹介します。



タペストリー
エクアドル サラサカ族

2020年豊田国際紙フォーラム『IAPMA展』 第1・2民芸館
 9月17日(木)～10月11日(日) <観覧 無料>

豊田市で開催される国際紙フォーラムに合わせて、世界中から応募のあった「紙」を主体としたアート作品のうち、IAPMAが選定した優秀作品を展示します。

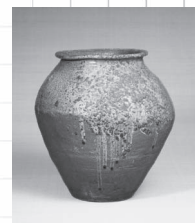
(IAPMA = The International Association of Hand Papermakers and Paper Artists)



2018年 IAPMA展(ブルガリア)

特別展『柳宗悦と古丹波』(日本民藝館巡回展) 第1・2民芸館
 10月24日(土)～1月24日(日) <観覧 有料>

日本民藝館の創設者・柳宗悦(1889～1961)は、晩年、古丹波について、「最も日本らしき品、渋さの極みを語る品、貧しさの富を示すもの」と評しています。また柳は、焼き物の上に降りかかった薪の灰が自然釉となる灰被に「他力の美」を見出しています。日本民藝館の丹波焼コレクションの中から約100点を展示紹介し、その古丹波の魅力に迫ります。なお本展は、令和元年度に日本民藝館で開催された展覧会を再構成した内容です。



自然釉甕
鎌倉時代 日本民藝館蔵

企画展『植物文様の民芸』 2月2日(火)～5月10日(日) <観覧 無料> 第1・2民芸館

牡丹文を貼り付けた半胴甕、大輪の菊模様が美しい石皿、松竹梅が描かれた蓬菜箱など、様々な植物をモチーフに取り入れた民芸品は多くあります。これらの民芸品の多くが盛んに作られていた江戸時代では、それぞれの植物をどのように認識し、また、どのような意味や祈りを込めて描いたのでしょうか。江戸時代中期の図説百科事典であり、同時代に発行された絵入り事典として圧倒的な項目数を持つ『和漢三才図会』の挿絵とともに民芸品を紹介します。

民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内

令和2年4月5日(日)まで	令和元年度民芸館講座作品展
4月11日(土)～	5月24日(日) 名古屋造形大学学生型紙ポスター「日本の美」展
6月6日(土)～	9月6日(日) (仮)Folk Craftsが生まれる世界の国々展
8月9日(日)～	9月6日(日) みんなの作品展
9月17日(木)～	10月11日(日) 藤井達吉サテライト展(2020年豊田国際紙フォーラム事業)
10月31日(土)～	11月29日(日) (仮)壽岳文章展(2020年豊田国際紙フォーラムパートナーシップ事業)
12月5日(土)～令和3年1月17日(日)	郷土玩具展 干支と丑
1月23日(土)～	3月7日(日) 第7回伝承挙母木綿展
3月23日(火)～	5月17日(日) 令和2年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となる場合があります。

民芸館からのお知らせ

①平戸橋桜まつり2020

4月4日(土) 雨天決行 午前10時～午後3時

◆民芸館を含む平戸橋公園会場

野外ステージや食品バザー、クラフトショップ、民芸館講座体験、こども園による絞りの作品展示、写生大会、スタンプラリー等

◆民芸の森会場

「豊田市民俗芸能祭」午後1時～3時

八草町八柱太鼓保存会、宮口棒の手保存会、西山万歳保存会
森の市（食品販売やクラフトショップ）、ガイドボランティア、
さくらウォーク（平戸橋一帯の桜を見てまわります）など



平戸橋桜まつり2019
こども園の絞り染め作品展示の様子

②春の勘八峡 桜ウィーク

3月20日(金祝)～4月5日(日)

桜の開花にあわせて上記期間にさまざまな催しを行います。

◆茶室 勘桜亭の平日営業（月曜日はお休みで、通常営業は土日祝日）

時 間：午前10時～午後4時

料 金：一服350円（菓子付）※4月より一服400円

◆民芸館と民芸の森の2館を見学しよう！

「民芸館・民芸の森ウォーキングマップ」に2館施設のスタンプを押して、
民芸館ポストカード、または民芸の森クリアファイルを手に入れよう！

スタンプの設置場所は、民芸館（第3民芸館）と民芸の森（田舎家）、平戸橋いこいの広場です。

時 間：午前9時～午後4時30分 入 館：無料

◆豊田の茶葉と豊田のお米・ミネアサヒを使った「茶めし弁当」の販売（なくなり次第終了）

日 に ち：3月28日(土) 時 間：午前11時～

場 所：第3民芸館 料 金：600円



平戸橋公園内の桜

③絞り染めこいのぼりの展示とミニこいのぼり作り

伝統的な染色技法の一つである絞り染めのこいのぼりを展示、
また以下の指定日に絞り染めのこいのぼり作りを実施します。

◆こいのぼりの展示

期 間：4月18日(土)～5月6日(水祝)

会 場：第3民芸館前、民芸の森

◆絞り染めこいのぼり作り

日 時：4月26日(日) 13時～15時

会 場：陶芸資料館1階染色室

参加費：1,200円（中学生以下1,000円）

対象・定員：どなたでも・15名

申込み：往復はがき（4/9必着）、詳細は民芸館へ



民芸の森 田舎家前



第3民芸館前

④茶室「勘桜亭」の呈茶料金を改定します。

令和2年4月より呈茶料金を食材等の値上がりのため、従来の一服350円から400円に値上げいたします。桜まつりでの呈茶料金も同様に変わります。どうぞご了承ください。

営業日（通常期：土日祝日）、営業時間（午前10時～午後4時）は変更ありません。

引き続きご利用ください。

資料紹介 編組品

令和2年3月8日まで開催している「館蔵 編組品」では、青森県から沖縄県までの編組品を約100点展示しています。編組品とは文字通り編み組した製品のことで、脱穀した穀物をあおって殻や塵などを取り除く農具である箕は、編組品の代表的な製品のひとつとして挙げられます。箕は全国共通して馬蹄型の形状をしており、各地で竹や樹皮、蔓植物など様々な材料で製作される中、補強材として、また、滑らかさや弾力性を高める目的で、山桜の外皮を編み込むこともあります。今回は多数ある箕の中でも、とりわけ山桜が特徴的に使用されている箕を2点紹介します。

論田中箕／坂下武夫(富山県) 平成16年度 日本民藝館展入選※1



富山県氷見市の論田地区で作られた箕です。藤と矢竹を用いてござ目編みにし、針槐(ニセアカシア)や山漆(ハゼノキ)の木枠に取り付けています。角の折れ曲がっている部分には補強材として、掃き出し口には滑りやすくなるようにと山桜の樹皮が用いられ、機能としてだけでなく、デザイン性的美も感じられます。中央部分にも山桜が織り込まれていますが、ここにはもともと山桜は使われていませんでした。この箕を日本民藝館展へ推薦・出品した久野恵一氏※2のアドバイスによってなされたものです。箕の表面、竹に注目すると、奥の折れ曲がった部分と掃き出し口では竹ヒゴの身側が表になるように、これ以外ではヒゴの皮側が表になるように編まれています。竹は皮側の方が身側よりも滑りやすいため、箕の中ほど大部分を皮側にする事で穀物があおりやすくなり、掃き出し口は身側にする事で適度に滑りやすくなるようにと工夫されています。そのほか、木枠に巻かれた藤の外皮が持ち手の滑り止めになる機能性も兼ねています。

下は掃き出し口を拡大した画像。下から6列はヒゴの身側を上にしてしている。

日置箕／平野正義(鹿児島県) 平成4年度 日本民藝館展入選

部分的に山桜の樹皮を編み込んだ箕は日本でも複数の地域で見られますが、鹿児島県日置市で作られるこの日置箕は贅沢にも全面に山桜の樹皮を入れています。全体の材質としては、キンチク(蓬萊竹)と呼ばれる細い竹をヒゴにして山桜の樹皮を挟み込み、山枇杷の木枠に取り付け、葛藤(オオツツラフジ)の蔓で固定しています。この葛藤が見た目のアクセントの一つにもなり、使用する際のグリップとして滑り止めの役割も果たしています。また、右上の画像で箕の中ほどで竹の色が少し違うのが確認できるでしょうか。これは中ほど少し上から折り曲げ部分まではヒゴの身側を表面に出し、中ほどから掃き出し部分までは皮側を表面にしているためです。上記の論田中箕と同じく、使い手のことを考えた細かな工夫がされています。

(岩間千秋)

下は、箕の中央あたりを拡大した画像。上半分ほどは竹の身側、下半分は皮側が上面になっている。また、ヒゴの交差部分には藤葛の繊維が織り込まれている。



- ※1 日本民藝館(東京・駒場)で毎年開催される新作工芸の公募展
- ※2 久野恵一氏(1947-2015)はもやい工藝(鎌倉)の店主で、手仕事の産地に自ら足を運び、買いつけ・調査を行い、長年にわたり日本民藝館展へ推薦・出品してきた。参考図書にある民藝の教科書シリーズを監修。

参考図書 『日本民具辞典』ぎょうせい 平成9年
『絵引 民具の事典』河出書房新社 2008年
『民藝の教科書④ かごとざる』グラフィック社 2015年

お問合せ 豊田市民芸館(豊田市教育委員会文化財課)

〒470-0331 豊田市平戸橋町波岩86-100

TEL 0565-45-4039 FAX 0565-46-2588

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)

開館時間 午前9時~午後5時

入館料 無料(特別展は有料)

<http://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

豊田市民芸の森

〒470-0331

豊田市平戸橋町石平60-1

TEL 0565-46-0001

